



平成 25 年 5 入職

い り さ あ つ こ
入 佐 敦 子

プロフェッショナルとして自覚を、いつも胸に

自分が受けたいとおもう看護を提供する

自分が患者さまの立場だったらどのような看護を提供されたいか、それは常に私の頭の中にあることです。出来る限りの技術と知識を提供し、安全安楽な看護を提供することは、看護師という国家資格をもったプロフェッショナルとしての義務と考えます。患者さまひとりひとりが抱えている疾患も生活背景も異なり、性格も様々です。そんな患者さま個々に対し、少しでも心に寄り添えるような、信頼される看護を提供できるよう、日々模索中です。

理想の姿と比較すると、今はまだまだ



看護師になってから、自分に満足したことは一度もありません。初めて透析看護に従事した時から、透析だけの世界に居ては看護師として不十分と、常に自分自身に物足りなさを感じていました。どんな時にでも柔軟且つ幅広く適切に対応できるように看護師になりたい、そんな思いから透析業務から一度離れ、数年間の病棟勤務を経て、現在に至ります。以前よりは少しは成長したとは思ものの、過去に出会った素晴らしい先輩たちを思い出すたび、自分はまだまだと思います。患者さまに、あの人が見てくれるなら安心して任せられると思われるような存在になればと願っております。

エキスパートナースに選ばれたことは一つの自信になりました。周囲から認めて頂けたような気がして。両親も喜んでくれました。医師の父、看護師の母のもとで育ち、幼い頃から医療の現場で生き生きと働く両親の会話を耳にしていた私は、気が付けば看護の道を目指していました。ただ、両親から直接的に看護師になれと言われたことはありません。両親の影響こそ大きいですが、最終的にこの道で生きていくのは自分で決めたことです。壁にぶつかることも多々ありますが、今自分にできることをひとつひとつこなしながら、少しずつ理想に近づいていきたいと思っています。



全ての患者さま、スタッフから
信頼され 必要とされる
看護師になれるよう
努力します
入佐 敦子